

質 問 趣 意 書 提 出 書

知事及び教育長に文書による質問をしたいので、神奈川県議会会議規則第83条第2項の規定により、別紙のとおり質問趣意書を提出します。

令和8年6月24日

神奈川県議会議長 杉本 透 殿

神奈川県議会議員 谷 和雄

「厚木秦野道路のインターチェンジアクセス道路である渋沢小原線の整備に向けた取組について」

厚木秦野道路は新東名高速道路や圏央道とともに、県央湘南地域における広域的な交通ネットワークを形成する重要な道路であり、国道246号の渋滞の緩和はもとより、物流の効率化や企業立地の促進、観光振興など様々な効果が期待されます。さらに重要なことは、災害時などには国道246号の代替路として機能することが大きく期待されています。

しかしながら、この厚木秦野道路は、平成8年度に都市計画決定され30年もの歳月が流れてしまいました。この間も地元市町村で構成する「国道246バイパス建設促進協議会」では、国・県に向けて早期整備などの要望活動が続けております。

これらの活動もあって、一部区間は事業着手され、少しずつ事業が前に進んでいるように感じていますが、未だ全線開通が見通せない状況であります。

私は秦野市選出の議員として、早期全線開通に向けて、建設・企業常任委員会や質問趣意書、更には予算委員会などで繰り返し質問をしてきました。

厚木秦野道路の早期全線開通に向けては、厚木秦野道路本線と併せて、インターチェンジアクセス道路の整備を進めて行くことが重要であり、「かながわのみちづくり計画」に位置づけられている、(仮称)渋沢インターチェンジへアクセスする渋沢小原線の整備を進めていくことが必要であると考えています。

そこで、知事に伺います。厚木秦野道路のアクセス道路である、渋沢小原線の整備に向けて、今後どのように取り組んでいくのか、見解を伺います。

「インクルーシブ教育の充実に向けて」

神奈川県は「誰もがともに学べる共生社会」の実現に向け、全国に先駆けてインクルーシブ教育を推進しており、特に県立高校では、知的障がいのある生徒が通常の高校で共に学べる「インクルーシブ教育実践推進校」の特別募集制度が広く導入されています。

このインクルーシブ教育実践推進校については、神奈川県立高校の18校が指定されており、一般募集に加えて「特別募集」枠が設けられています。特別募集のメリットとしては、学力検査ではなく、面接で受験が可能であり、県内全域どこからでも志願可能と承知しております。

このように、誰もがともに学べる共生社会の実現に向けて取り組む神奈川県教育委員会に敬意を表するところであります。

知的障がいのある生徒が高校で学び、相互理解や社会性の育成が促進される事、また、教員間の連携強化と専門性の共有が進みインクルーシブ教育が質的に向上する事に期待するところであります。

これは知的障がいのある生徒さんの社会性を養うだけでなく、健常者の生徒さんにとってもさまざまな個性を持つ相手を思いやる心が育まれ、インクルーシブ教育の質的向上が更に推進されるものと期待しております。

そこで教育長に伺います。県が推し進めるインクルーシブ教育実践推進校の取り組みで、指定校の健常者生徒への効果はどのようなか、また、知的障がいのある生徒からの目線で見た効果をどのように捉えて取り組んでいるのか伺います。

教育においては、学力向上はもとより、併せて相手を気遣ったり、思い遣ったりできる心育む教育が重要であり、そのためには、幼少期、小学校の頃から知的障がい者の皆さんともふれあいながら、相手を思いやることのできる心育む幼少期からの「ごちゃまぜ」な教育も必要と考えます。

そうした中、秦野市では、市立末広小学校に県立秦野支援学校を併設し、学校の共用環境を生かしたインクルーシブ教育の推進に向け取り組んでおります。

昨年度も「インクルーシブな学校運営モデル事業」に取り組み、特別支援学校と小学校が連携した学校運営のもと、交流及び共同学習の充実と、専門性を生かした指導体制の構築に

取り組みました。

成果としては、交流及び共同学習の充実により児童の相互理解や社会性の育成が促進され、双方の教員間連携強化と専門性の共有が進み、すべての子どもが同じ場で共に学ぶ授業実践の質的向上が見られた一方、持続性を鑑み、校内体制の整備や時間の確保、専門性の更なる向上が課題とのことであります。

そこで、教育長に伺います。この「インクルーシブな学校運営モデル事業」に県教育委員会はどのように関わっているのか。

また、県立特別支援学校と市立小学校の併設も含め、どのように本事業を捉えているのか見解を伺います。